



Toho

東 邦 キ ャ ン パ ス

Campus

vol.130
平成31年(2019年)1月 発行

発行 学校法人 東邦学園 〒465-8515名古屋市中東区平和が丘三丁目11番地 TEL 052 (782) 1241 FAX 052 (781) 0931

HP [東邦学園](#) [愛知東邦大学](#) [東邦高等学校](#) [検索](#)

特集

大学 国際ビジネス学科がベトナムで
初のインターンシップ
高校 新たな広がり見せる国際交流



大学女子サッカー部と 高校サッカー部が全国 舞台で躍動

年末に兵庫県三木市で開催された第27回全日本大学女子サッカー選手権大会(インカレ)に5年連続6回目の出場を果たした大学女子サッカー部は2回戦に進出。残念ながら徳山大学に敗れ初のベスト8はなりませんでした。果敢な攻めでの躍動が光りました。高校サッカー部も6回目となる第97回全国高校サッカー選手権大会に出場。大晦日に等々力陸上競技場(川崎市)で大分高校と熱戦を繰り広げましたが惜しくも2回戦進出を逃しました。2019年も東邦学園の全国舞台でのさらなる躍動を期待しましょう。



目次

年頭所感



「猫の手」に 甘んじない力を

学園理事長 愛知東邦大学学長
榊 直樹

誰でもいいから手伝ってほしい忙しさを、「猫の手も借りたいほどの忙しさ」と言います。愛猫家に叱られるかもしれませんが、諸説の中に「鼠を捕るくらいで、他に役立たないような猫でさえ、その手を借りられたら助かるほど忙しい、という意味」とありました。

「猫の手」を引用したのは、昨年末の国会で外国人材確保のための入国管理法改正案が大議論となり、急速に人手不足に陥っている日本社会の姿に、関心が集まったからです。

確かにアルバイトの時給は800円台から1000円台に、就職先は選り好みしなければ必ず見つかる時代です。

人手不足から夜間営業を止めたり、倒産・閉店に追い込まれたりする企業や店舗も相次いでいるようです。しかし改正入管法の内容をみると、低賃金で日本人がやりたがらない仕事を、「猫の手」としか見ない外国人の労働力で穴埋めさせたい本音があると感じました。

ここで考えて頂きたいのは、学生・生徒の皆さんが将来働くとき、「猫の手」に甘んじないという視点です。今の日本の問題の核心は人手不足よりも、「人材不足」にあるのではないかと思うからです。例えば農業は人手を多く必要とする職種の代表格で、現に外国人に支えられている生産地も少なくありません。けれども、人工衛星から白菜の虫食い状況を把握し、ドローンに農薬の散布先も量も任せる、或いは地中に埋めたセンサーで水分量を検知して散水量を制御するイスラエルの技術をテレビで見たとき、「知恵の勝負」だと実感したのです。

現在の仕事は、半数が近い将来なくなると予想されています。「猫の手」に甘んじない力を身に付けるのだ——。そんな心構えで新年をスタートしましょう。



新たな年の幕開けに 向けて

東邦高等学校校長
佐々木 泰裕

新年あけましておめでとうございます。

新しい年「2019(平成31)年」の始まりと同時に、あと4か月で平成の時代が終わり、新たな時代の始まりです。本校にとって平成の時代は、国際交流が根付いた時代でした。

昭和63年南京外国語学校(中国)、平成元年シャーリーボーイズハイスクール(NZ)・マリアンカレッジ(NZ)、平成9年サレジオンカレッジ(AUS)との交流を始めるようになりました。

平成の終わり、平成28年上一女子高校(韓国)、平成30年ザルツマンシュレー(GER)、平成31年仏堂高校

(韓国)との新たな交流を拡大しました。5校姉妹交流会においては、2019年度から本校と姉妹校を交互に毎年開催することを決めました。更に国際探究コースの2020年度設置を決定しました。グローバル化への下地は整いました。

また現在、教育改革の大きな波が押し寄せようとしています。2019年度から本格的活用が予定されている「高校生のための学びの基礎診断」の検討、2020年度から導入が予定されている「大学入学共通テスト」への対応、2022年度から年次進行でスタートする新学習指導要領への準備など、重要事項への対応が目白押しです。

最後に2019年4月から校長が交替します。直後の5月には元号が改正されます。新たな東邦丸の船出にはグッドタイミングだと感じています。教職員が一丸となれば大きな波も乗り越えていけるものと確信しております。東邦高校が100年と言わず200年続くよう頑張っていきます。皆様のご協力を願います。



高校決勝戦の東邦応援席では女子サッカー部も声援

大学女子サッカー部、高校サッカー部が そろって全国舞台へ

2018年は愛知東邦大学女子サッカー部と東邦高校サッカー部がそろって全国舞台への出場を果たしました。

大学女子サッカー部は第27回全日本大学女子サッカー選手権大会(インカレ)の東海地区予選を勝ち抜き、5年連続6回目のインカレ出場を決めました。目標であった東海第1代表は逃しましたが、11月11日の予選最終戦で、これまで一度も勝つことが出来なかった静岡産業大学にPK戦で初勝利して代表を決定づけました。



5年連続6回目のインカレ出場を決めた女子サッカー部

高校サッカー部は11月17日に行われたパロマ瑞穂スタジアムでの第97回全国高校サッカー選手権大会愛知県大会決勝で名古屋高校と対戦。延長戦でも決着がつかない大熱戦となり、両チーム9人ずつが蹴るPK戦の末、東邦高校が名古屋高校を破り優勝、2年ぶり6回目の大会出場を決めました。

今年の東邦は、主力選手の負傷など試練が続きましたが、団結力で乗り越えての快挙でした。野田大智主

将は「全員で守りを固めてカウンター攻撃で勝負し、最低でも8強に食い込みたい」と全国大会への決意を語りました。



2年ぶり6回目の全国高校サッカー選手権大会出場のサッカー部

高校決勝戦を大学女子サッカー部も応援

大学女子サッカー部と高校サッカー部がそろって全国舞台に出場するのは2016年に続き2回目。女子サッカー部員たちは高校サッカー部のパロマ瑞穂スタジアムでの決勝戦をスタンドから応援。優勝決定に、プログで「私たちの創部から2回目の高校、大学そろっての全国大会出場になります。お互い、全国大会で目標を達成できるようさらに努力しましょう!!」とエールを送りました。

女子サッカー部の大城穂香主将は「同じ日進グラウンドで練習する東邦高校が、強豪校がひしめく愛知大会を制覇し、全国舞台出場を決めたことは、やはりインカレでベスト8をめざす我々にも大きな励みになります」と話しています。

特集

国際ビジネス学科3年生9人 ベトナムで初の インターンシップを体験

田村 豊（経営学部国際ビジネス学科長）



3週間のインターンシップを終えて
左端は田村学科長

経営学部国際ビジネス学科(IB)では2018年9月2日から23日にかけて、3年生9人がベトナムで海外就業体験(インターンシップ)を実施し無事終了しました。以下、報告します。

IBでは2016年度の学科設置以降、本学科の設置課題である東海地域の中規模・中堅企業の海外事業を支える「コア人材」を育成するために、経営学の知識の習得と合わせ、グローバル人材にとって不可欠な英語力の育成のためにも取り組んできました。なかでも今回実施した海外インターンシップは本学科の目玉として学科設立当初から準備をしてきたものです。

実施場所はベトナムのホーチミン市を選びました。これは商業地としてホーチミンがベトナムでも有数の都市であり、日系企業の進出が多いことがあげられます。

日系企業6社で就業体験

学生がインターンシップを行なう実施先としては、日系企業にお願いし6社で実現できました。業種内容はIT系、食品系、コンサルタント系などで、学生は1人ずつ、最大2人で3週間、従業員として業務を担当しました。大学としても今回のインターンシップについては現地での安全、生活面でのサポートが必要だと考え、授業担当者である田村が最後の1週間、現地で学生らと過ごして状況を見てきました。

現地での勤務内容、仕事内容は職場、企業で様々でした。しかし共通して、与えられた課題をベトナムの方々と一緒になって仕事することが必要でした。ほとんどの派遣先で、ベトナムの方と一緒にデータ集計、ホームページ(HP)作成、取引先への連絡、営業促進などを行っていました。

例えば、ホーチミン市の中心街にある高島屋での製菓の販売などでは、店長さんはベトナムの方で、一緒になって和菓子売るために、日本語と英語の説明資料を作成し、店舗で試食提供などを担当しました。

食品関係では日本の仕事のやり方をベトナムの方に伝えるために、日本語マニュアルを日本語からベトナム語へ、そして英語へと翻訳しました。コンサル業では、現地日系企業への営業サポート業務、ベトナムへと進出を希望する日本の顧客に向けて、ベトナムの労働法の日本との違いをパワーポイントで作成しレポートする。またある学生は、自分の趣味をベトナムと日本の方々に紹介するブログの作成の責任者となるなど、自分の趣味や興味をもとにして日本人ならではの仕事を与えられていました。

現地で学生らはアパートメントで過ごし、自分たちで食事を作り、生活しました。ホテルでの滞在は多くの大学でも行なっていますが、IBでは現地での生活をより身近に感じさせること、またコスト面も考え、ホテル滞在ではなく通常の生活ができるアパートを借り上げることにしました(男女別のフロアーで各階に共

同のキッチン、トイレ、シャワーが整っています)。

海外進出で求められる日本人パワー

海外インターンシップの実施に当たっては、1年生、2年生の段階で様々な準備となる授業を学生たちは受講してきました。例えば、ヒアリング活動を盛り込んだ「フィールド調査」を行ったり、名古屋地域のJICAを訪問しアフリカでの日本企業の活動を学ぶなど、海外インターンシップの基礎となる授業などを踏まえて今回の海外でのインターンシップとなりました。

IBは経営学を軸において、海外ビジネスを展望でき

る、今後の愛知地域の企業にとって魅力ある人材を輩出することが学科の課題です。今回のインターンシップは、海外でご苦労をしている日系企業の方々からはとても好評で、「次回もそして通年でも来てくれれば助かります」という話も出てきてとても驚かされました。

日本企業の海外進出にとって日本人のパワーはとても重要なものであり、学科の課題については、今後いっそうの深化が必要だとも感じた次第です。ぜひとも、学生たちが少しでも今回の経験を今後の就職や人生の糧にして成長していったほしいと強く感じました。今後ともみなさまのご協力とご支援をいただければ幸いです。

◆ インターンシップ体験記 ◆

◆**日本語が通じない大変さ乗り越える** 「ラーメンバー」という、バーが一緒になっているラーメン店と、「串太郎」という居酒屋で3週間のインターンシップを体験。スタッフ全員がベトナム人で、日本語が通じる人が一人しかいない現場の中で業務をしました。最初は何を言っているのか、全く分からず、業務内容を覚えるのがとても大変でしたが、日がたつごとに、仕事を覚えられるようになっていき、ジェスチャーを交えての会話も何となく出来るようになりました。とても良い経験が出来たと思うし、仕事をする大変さも知ることが出来ました。(福井 稔平さん)

◆**実際の体験で180度考えが変わった** 市岡製菓という日系企業で仕事。途上国ということで不安もありましたが、180度考えが変わりました。すごく活気があり、自分にも多くの影響を与えてくれました。職場はすごく働きやすく楽しく、しっかり働くことができました。来年行く後輩たちもいい経験ができるとだろうと感じました。素晴らしい体験ができてよかったと思っています。(佐竹 良介さん)



佐竹さん(中)と伊藤さん(左)

◆**販促チラシを作成し配布** 職場となった市岡製菓は、どら焼きやスイートポテトなどを作っており、ベトナムのファミリーマートや高島屋で販売しています。インターンシップでは、お客を増やすためにチラシを作成し、高島屋で配ったりしました。どら焼きを作っている工場での仕事も体験しました。工場の仕事や、高島屋の裏側での仕事など、とても密度の濃い経験をさせていただいた3週間でした。(伊藤 秀吉さん)

◆**日本と違う文化、社会を感じた** 日本と違う文化、社会を感じ、とても役に立ちました。飲食業で働きましたが、日本の居酒屋で働いた経験があり、大丈夫だろうと、最初は軽い気持ちでしたが、日本の働き方とは異なる部分が多く戸惑うこともありました。しかし、現地のスタッフと会話をしながら仕事に慣れ、とても充実した2週間になりました。休日の日もベトナムの歴史などに触れることで日本との違いなどを学ぶことが出来ました。(渡邊 将人さん)

◆**人材紹介会社でデスクワーク** 「Age code」という人材紹介会社で3週間仕のインターンシップをさせていただきました。仕事はほぼデスクワークで、紹介できそうな会社をパソコンで調べるといったものでした。仕事内容は日々同じようで、少し退屈な場面がありましたが、忍耐力も鍛えられ、集中力が上がった気がします。海外に出たことで、コミュニケーション能力、向上心も上がり、自分のやりたい仕事を見つけた気がします。(久野 響亮さん)

◆**大変だったが仕事の楽しさも体験** 職場はホーチミン市の人材紹介会社「Age code」。主な仕事としては、企業間でのテレアポや企業リスト、ブログの作成をしました。実際に勤務してみて、アポイントを取ることの難しさや英語を使って会話することの難しさを学びました。しかし、仕事の大変さとともに仕事の楽しさも体験することが出来ました。(湯浅 圭市さん)

特集

新たな広がり見せる国際交流

ドイツのザルツマンシュレー校から 生徒11人が来校

東邦高校の国際交流は2018年度、ドイツのザルツマンシュレー校から生徒11人の来校、韓国2校目の高校との交流が始まるなど新たな広がりを見せました。

ザルツマンシュレー校はドイツのチューリンゲン州にある語学コースのある学校。日本とは学校制度が異なりますが、高校1、2年生にあたる日本語コースの11人が9月20日から26日まで来校し、生徒宅にホームステイしながら東邦高校での学校生活を体験しました。



来校したザルツマンシュレー校の生徒たち

ザルツマンシュレー校との交流の開始は、2016年にドイツの美術大学で1年間研修した美術科の小塚康成教諭が、同校が日本の高校との交流を望んでおり、東邦高校と同じユネスコスクール加盟校であることが分かったことがきっかけでした。2017年には生徒たちによる手紙の交換が続き、今回の来日につながりました。

11人の生徒たちは9月21日から2日間開催された文化祭を体験したほか、着付けや剣道体験などを通しての日本文化に触れ、美術科2年生たちのデッサン授業も体験しました。準備してきたドイツ文化紹介のプレゼン、文化祭でのダンス部とのコラボ演技などでも交流を深めました。ザルツマンシュレー校側は2019年以降も、生徒たちの東邦高校訪問を希望しているそうです。

東邦高校は2016年8月にソウル東部にある上一(サンイル)女子高校と国際交流教育に関する覚書を交わし、生徒たちの相互訪問が続いています。2018年度は

やはり韓国の天安市にある天安仏堂高校の生徒たちとの交流計画が進み、2019年1月には同校生徒が東邦高校を訪れるのを機会に交流促進の覚え書きを交わすことになっています。

4か国5校姉妹校交流会は毎年開催へ

東邦高校では現在、3か国4校と姉妹校提携をしています。中国の南京外国語学校、ニュージーランドのシャーリーボーイズハイスクール、マリアンカレッジ、オーストラリアのサレジアンカレッジ・サンベリーです。

南京外国語学校との交流は2018年に提携開始から30年を迎えました。日中平和友好条約締結40周年と重なったこともあり、12月21日には東邦高校体育館で、中国雑技団の公演が行われました。

2018年には、4月30日から5月3日まで、東邦高校と提携4校による4か国5校姉妹校交流会がニュージーランドで開催されました。交流会は東邦高校の提案で1997年から会場を持ち回りにして2年ごとに開催されていましたが、今後は毎年開催することになりました。2019年は毎年開催となつての初の交流会が東邦高校で開催されます。

国際交流室の伊藤保憲教諭は「4か国5校姉妹校交流が一段と活発になるのに加え、ヨーロッパから環境先進国と言われるドイツのザルツマンシュレー校、そして韓国2校との交流促進で、東邦高校の国際交流の輪はさらに大きな広がりを見せそう」と期待を膨らませています。



剣道部でのクラブ活動体験

美術科でドイツの美術大学教授が ワークショップ授業

美術科では8月、ドイツの美術大学教授によるワークショップ授業が行われました。授業を行ったのは、ブルク・ギービツヒェンシュタイン美術大学のウルリッヒ・クリーバー教授(造形基礎)。小塚康成教諭が2016年に、同美術大学で1年間研修した際、同教授から指導を受けたのが縁で実現しました。

クリーバー教授は、中国やベトナムの美術大学の客員教授も務め、アイデアや発想力を引き出す授業開発に取り組んでいます。小塚教諭との出会いが縁で、日本の高校での美術教育の現場をぜひ見てみたいと、自費で来日し、東邦高校を訪れました。

ワークショップ授業は夏休み中の8月21日から24日

までアトリエで行われました。デザイン専攻の1、2年生80人が指導を受けましたが、小塚教諭は「美に対する自由な発想を重視するクリーバー教授の指導に創造することの面白さ、喜びを感じた生徒が多かったようです」と話しています。



ワークショップ授業で指導するクリーバー教授

西野達さんの芸術選奨受賞を記念し講演とシンポジウムを開催

東邦高校の卒業生(1995年卒)で、現代美術家として国際的な舞台で活躍する西野達さんの2017年度芸術選奨文部科学大臣賞受賞を記念した東邦学園主催の講演とシンポジウムが9月15日夜、名古屋市中区で開催されました。

会場の青少年文化センター(ナディアパークデザインセンタービル11階)は、東邦高校生たちや、後援した東邦高校同窓会の東邦会、東邦学園を応援するフレ

ンズTOHOの関係者ら約200人で埋まりました。

西野さんは「西野達の不可能を可能にするアートワーク」のテーマで講演。シンガポールのマライオンを使ったホテルプロジェクトや愛知県美術館での「愉しき家」展などの自身が手掛けた作品の数々を紹介。スクリーンに奇想天外とも言える作品が登場するたびに、会場からはどよめきが上がりました。

“

関係者の皆様、本当にありがとうございました 西野 達



講演する西野さん

この度は、様々なサポートを多方面からいただき、無事シンポジウムを終えて安堵しております。最初に依頼があった時には、こんなに大規模な内容になるとは思ってもいなくてシンポジウムが近づくとともに緊張感が高まってきました。

当日は「アート・建築から見た未来の街づくり」と題して、パネラーとして、私と鵜飼哲矢氏、河村たかし氏、モデレーターに牧ゆかりさん、総合司会に山中章子さんと、約2時間余り語りつくしました。来場していただいた各方面の方々には感謝いたします。

また、私自身の作品紹介については、是非とも東邦高校美術科の後輩に向けて、今後の機会にも講演会をさせていただきたいと思っております。

主催していただいた東邦学園、後援していただいた東邦高等学校同窓会東邦会、フレンズ・TOHOの関係者の皆様、本当にありがとうございました。

(11月8日)

II 大学／行事・クラブ活動

過去最大の人出となった第54回和丘祭に感動

学生会長兼大学祭実行委員長

井本 健一(経営学部4年)

第54回愛知東邦大学和丘祭の来場者数は、1日開催にも関わらず過去最大となりました。半年間、共に頑張ってきた仲間たちと作り上げた大学祭だけに、何よりも嬉しく、感動しました。愛知東邦大学のことをより多くの方々に知ってもらうよい機会になれたものと思います。

準備期間中、不安もありましたが、皆で一つのものを作り上げるということは楽しく、完成に近づくにつれてドキドキ感、ワクワク感に変わりました。自分達の作ったものを早く見てもらいたい、あっと言わせたい、そんな気持ちも込み上げてきました。完成したものを実行委員会のメンバーと見たとき、みんなが笑顔になってくれたことは自分にとって一番心に響くもの



でした。

ステージ企画には吹奏楽団、名古屋グランパスチアダンススクールのほか、日本福祉大学、名城大学など他大学のサークルにも出演していただきました。人気お笑いコンビ「野性爆弾」のショーが始まる午後1時には人波は一段と膨れ上がりました。

室内企画であるVR体験や東邦ラボといった盛りだくさんのイベントも成功させることができました。至る所で、来場者が楽しんでいる姿を見て、とても清々しい気持ちになりました。また、実行委員会の後輩たちの成長した姿を見て、私自身心が熱くなりました。

この大学祭は私たち実行委員会だけで作り上げたものではありません。一緒に作り上げてくれた愛知東邦大学の学生、支えてくれた大学の教職員の方々、多くの関係者の皆様に心より感謝申し上げます。来年は、さらにより良い大学祭になるよう、後輩たちに受け継ぎたいと思います。

悔しさバネにチーム一丸で「1部昇格即優勝」めざす

硬式野球部主務 武田 祥吾(人間健康学部2年生)

平素より愛知東邦大学硬式野球部へのご支援、ご声援誠に有難うございます。

「1部昇格」を目指し臨んだ2018年度の愛知大学野球秋季2部リーグは7勝3敗でAリーグ優勝することができました。しかし、Bリーグ1位の愛知工業大学との2部優勝決定戦では0勝2敗と負けてしまいました。明らかな力の差は感じなかったものの、もう一つチームとして成長しなければいけないと感じました。

その愛知工業大学は、1部最下位の愛知大学との入替戦を2勝1敗で勝ち越し、1部昇格を果たしました。自分たちが目標にしていることを同じ2部チームが成し遂げ、1部に上がりました。2部優勝決定戦で戦った相手ということもあり悔しい気持ちでいっぱいです。

この悔しさをバネに、新たにスタートを切り、「1部昇格即優勝」を目標に掲げ日々精進していきます。冬季練習から1部に上がるための練習にチーム一丸となって取り組んでいます。

また、野球以外にも、大学生活での態度、挨拶、マナーの徹底など人間的な成長をめざします。硬式野球



部から元気な愛知東邦大学に変えていきます。今後とも、硬式野球部への温かいご支援、ご声援のほど宜しくお願い致します。

女子バスケットボール監督就任にあたって

山村 伸(人間健康学部准教授)

本年度より人間健康学部教員に赴任した山村伸と申します。2019年度より強化指定部として始動する女子バスケットボール部監督就任にあたっての抱負を述べさせていただきます。

監督に就任するにあたり、もちろん「勝利」を目指すことが大切だと考えていますが、それと並行して次の3つを基本理念として活動していきます。

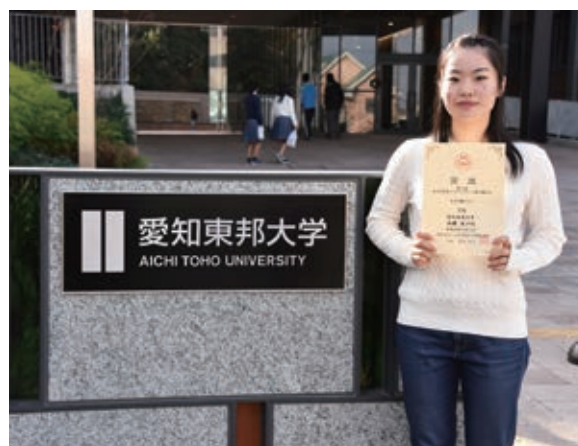
- 1.「真面目・文武両道」 部活動にも勉学にも真面目に取り組み、なりうる最高の自分を目指す。
- 2.「愛され応援されるチーム」 バスケットボールを通じて、感謝の気持ち、礼節、思いやり、自主性を備えた人間性を養う。
- 3.「地域貢献」 バスケットボールを通じて地域との交流をはかり、その発展に貢献する。



少々、お堅い文章になってしまいましたがご容赦下さい。私自身も学ぶ事を忘れずに選手と共に成長し続けたいと思っています。どうぞ宜しくお願い致します。

佐藤さんが2年連続でフィギュアインカレ出場

人間健康学部2年生の佐藤亜夕妃さんが1月5日に栃木県日光市で開催される第91回日本学生氷上競技選手権大会(インカレ)のフィギュアスケート競技に2年連続出場することが決まりました。インカレ出場は大学でスケート部などに所属していることが条件。愛知東邦大学では「フィギュアスケート部」を発足させ、



佐藤さんのインカレ出場の夢を後押ししています。

佐藤さんは11月16日から大阪府立臨海スポーツセンターで開催された第12回西日本学生フィギュアスケート選手権大会(西日本インカレ)に出場。女子6級クラスで2位に入賞し、インカレ本戦出場枠(11位内)で堂々上位での出場を決めました。佐藤さんは前回インカレ本戦では2位。「今回は1位を狙いたいのはもちろんですが、意識しすぎればプレッシャーになります。世界の大舞台でいつも結果を出している羽生(結弦)さんは本当にすごいと思っています」とも語りました。

「チーム」として戦う重要性

男子サッカー部監督 伊藤 数馬

平素より男子サッカー部の活動にご支援いただきありがとうございます。我々は「東海学生サッカーリーグ1部昇格」を目標に活動しておりますが、2018年度は第7位という結果に終わり、目標を達成することができませんでした。今年度の成績については、リーグ序盤からなかなか勝ちに恵まれず、昇格争いにはほとんど絡むことができませんでした。リーグ上位チームと比べ、「個」の力がやや劣る我々にとって「チーム(組織)」として戦うことの重要性を一層考えさせられた



結果となりました。

近年、学生スポーツ・部活動を取り巻く環境は大きく変わろうとしています。大学スポーツでの問題が社会問題として取り上げられることもありました。大学まで競技スポーツを続けることは簡単なことではありませんが、その意義についてはチームとして共通理解を持っておきたいと考えています。高校生までの部活とは違った、大学生だからこそ競技スポーツとの関わりができるようになることが「1部昇格」を果たすための第一歩なのではないかと感じています。

まだまだあらゆる面で未熟なチームではありますが、女子サッカー部と、お互いを高め合い、刺激し合いながら活動していきたいと思っておりますので、変わらぬご支援の程宜しくお願い致します。

第3回「名東区学生ミーティング」を開催

区政に若者たちの声を反映させることを目的とした愛知東邦大学と名東区の連携プロジェクト「学生ミーティング」が11月24日、5大学の学生たち約50人が参加して本学LCホールで開かれました。

実施運営にあたったのは、経営学部の船木恵一教授が担当する全学共通科目「東邦プロジェクトA」で学ぶ学生たち11人。名東区に隣接する千種区の相山女学園大学、愛知淑徳大学のほか、岐阜経済大学、愛知みずほ短期大学の学生たちもミーティングに加わりました。本学からは、手嶋慎介准教授とゼミ生、学生会、学生寮(TOHO Learning House)の学生たち、来賓として平和が丘学区連絡協議会の5人も参加しました。

名東区の永井真紀区政部長のあいさつの後、学生た



ちは6グループに分かれ、第1部として4大学からの事例発表と「大学・学生は地域社会にどう貢献できるのか」をテーマにしたグループ討議を行いました。第2部では学生寮の「認知症カフェ」の取り組みなどが紹介され、「名東区と大学の関わり方の未来」をテーマに意見交換が行われました。

船木教授は、「各大学からの発表を聞いて、地域の思いの共有、それを実行する体制づくり、継続させる気持ちが必要であると改めて感じました」と講評しました。

年間行事 (2018年度)

- 1月 後期講義終了、後期末試験
- 2月 後期末試験、就職合宿、卒業研究発表会、春期休暇(2/7~3/31)
- 3月 卒業証書授与式、学内企業展



世界初の快挙！TMBがカリフォルニア、フロリダの4パレード制覇へ

TMB音楽監督 白谷 峰人

アジア・オセアニア地区代表として出場したローズパレード2016。ローズパレード2016出場と合わせて実施したディズニーカリフォルニアでのパレード。この二つに続き、2019年3月、我々TOHO MARCHING BAND(TMB)はフロリダディズニーワールドとユニバーサルスタジオフロリダでのWパレードを実現します。

通常、海外のマーチングバンドがこの二つのビッグパークをパレード

II 高校／行事・クラブ活動

躍動する東邦生が“共鳴”2018学園祭

生徒会正顧問 古田 知子

秋晴れの9月19日(水)、体育祭が開催されました。団対抗リレー、学年対抗リレーなどの競技種目、台風の日や綱引きなどの団体種目やレク種目では、生徒たちが全力で競技し、大いに力を競い合いました。また、東邦伝統の1年生全員による花笠踊りや、学年を超えて一つになった応援合戦には大きな声援が送られました。



9月21日(金)・22日(土)に開催された文化祭は、父母・地域の皆さん、中学生をはじめ4329人という多くの皆さんにご来場いただきました。「共鳴～あなたの声は?～」をテーマとして掲げ、実行委員会・各クラス・クラブは、夏休みから準備・練習を重ね、仲間とともに創り上げる喜びを実感することができました。

クラス企画は、迫力ある和太鼓や、歌と踊りなどのステージ企画をはじめ、コーヒークップやメリーゴーランド、トロッコなどの大型モノ作り企画や、お客さんが体験しながら楽しめる体験型企画、教室装飾にもこだわった模擬店など、多彩な企画満載でした。また、



東邦伝統の「東邦きしめん」をはじめ、PTAや同窓会企画なども大盛況でした。

2日目の交流の広場で行われた学園祭本部企画「ほくらのピースアカデミア」では、辰巳会より岡島貞一さん、伊藤樹雄さん、ピースあいちの語り部である中野見夫さんをお招きし、貴重な戦時中の体験を語って頂きました。

美術科2年生による「名古屋空襲を語り継ぐ作品展」も好評で、本部企画の中でも2人の生徒が“どのような思いで制作したのか”を発表しました。

また、生徒会は、憲法9条に自衛隊を明記すべきか否かを問う模擬国民投票に取り組み、「憲法について考えることは日本の将来について考えること。自分たちの生活、社会に責任をもって考えよう」と呼びかけました。

模擬店やバザーの売り上げは、東日本大震災、西日本豪雨支援、北海道震災支援、ユニセフ、文化財保護・芸術研究助成財団などへの寄付にあてられます。また、



沖縄ひめゆり祈念資料館への平和カンパは、2年生の修学旅行団が募金を届けています。

することは不可能とされています。しかしTOHOのローズパレード2016での功績が認められ、Wパレードの実現が可能となりました。ローズ、ディズニーカリフォルニア、フロリダディズニー、ユニバーサルスタジオフロリダ。この4つをパレード制覇するマーチングバンドは他に類をみないことであり、TMBが世界初となるそうです。

今回のフロリダ遠征ではパレードだけでなく、滞在するフロリダ州オーランドでのチャリティーコンサート開催や、同世代の音楽仲間との交流を通じて現地の

芸術文化を肌で感じ取ってきます。

また、ホームステイを通じて現地の生活や英語に親しみ、ホストファミリーと素敵な思い出を作ってきます。

TMBが2018年度から学園公式バンドとしての活動をスタートさせて以来、最初の海外遠征。TOHOのエンターテインメントを存分に世界へ発信していきます。

いつも応援ありがとうございます。もっともっと頑張ります。これからもよろしくお願いいたします。

1月 始業式、面接週間、学年末考査(3年)、
実力考査(1・2年)

2月 マラソン大会、修学旅行(人間健康コース)、予餞会

3月 卒業式、学年末考査、実力考査、
終業式

沖縄修学旅行を終えて

修学旅行第3団団長 今井 通昭



本年度も11月7日出発の1団から9日出発の3団まで、総勢13クラス465人で、恒例の沖縄修学旅行を実施しました。平和学習を含めた事前学習に取り組んだことで、ひめゆり平和祈念資料館での説明や、平和祈念堂でのセレモニーもだいぶ違った受け止めになったことでしょう。平和の大切さを改めて理解することができました。

そして、沖縄の自然と文化に触れました。マリン体験に参加した人は、想像した以上に美しかった海を直に楽しむことができました。むら咲むらでは沖縄独特の文化を体験できました。2日目の夜のエイサー体験は、クラス一丸となって踊りに夢中となりました。どのクラスも級長を中心に一生懸命になっていましたね。

高校生活の良き思い出の一つとして、これからの成長とともに各々の人生に刻んでもらえたらと思っています。

美術科が第2回イタリア修学旅行

美術科2年担任 小塚 康成

第2回美術科イタリア修学旅行は、晴天にも恵まれ、穏やかな秋の陽に包まれながらの素晴らしい旅行となりました。

今回の訪問地、フィレンツェ、ウフィッツイ美術館



では、レオナルドの受胎告知、ボッティチェリのピーナスの誕生など美術史では欠かせない名作の数々を間近で鑑賞でき、生徒たちは目を輝かせながらガイドの説明に聞き入っていました。また、バチカン市国、システリーナ礼拝堂における天井画「最後の審判」では、何世紀も越えて今なお観る人を惹きつけるミケランジェロの偉業について深く感じ取ることができました。

さらに、ボルゲーゼ美術館(ローマ)では、彫刻作品をデッサンするという日本では得難い体験ができました。真剣な眼差しで、彫刻作品に向かう生徒たちの姿に美術館職員から「素晴らしい学生たちだ」と褒められるほどでした。今回のイタリア修学旅行は、生徒たちの若く柔軟な美的感性を磨く上で、とても大切な機会になったと感じています。

「芸大ゼミ」について

芸術教科主任 杉浦 見奈子

「芸大ゼミ」実施のきっかけとなったのは、2016年10月に、卒業生で当時、東京藝術大学3年で彫刻専攻の安井鷹之介君が芸大ゼミを実施させてくださいと申し出があったのが発端です。美術科としては初の先輩が後輩を教えていく企画は、在校生のために有効な企画と捉え、2016年冬休みの3日間、2017年夏休みの4日間、2017年冬休みの3日間、2018年夏休みの4日間、2018年冬休みの3日間、合計5回実施と回を重ねて参りました。

その間、この企画に参加した生徒からは、現役での東京藝術大学や愛知県立芸術大学合格者も輩出しております。普通科からの参加者も含め受講者数45人となるこの企画は、大盛況の講習会として定着しております。



美術科卒業制作展を終えて

美術科3年担任 加藤 広士

2018年度美術科3年生卒業制作展「第26回未来の芸術家たち展」が10月24日から28日に名古屋市博物館で開催されました。総勢1077人のお客様にご来場とご高覧を賜り、誠にありがとうございました。

作品の搬入、美術科説明会参加者卒業制作展鑑賞ツアーの実施、制作者によるギャラリートークの実施、武蔵野美術大学の岩田壮平先生、小林耕平先生、石塚英樹先生によるご鑑賞とご講評、搬出まで、盛況のうちに無事終えることができました。

卒業制作は、制作者の今までの集大成であり、これ



からの原点となる作品です。長い制作期間中、高い緊張感と不安や迷いを伴いつつも努力し、各自の理想の実現に挑戦する作品が並びました。これを糧に、制作者指導者ともに次に向けて邁進いたします。保護者の皆様、教職員の皆様には、多大なご協力を賜りました。深く感謝を申し上げます。

9年ぶり県大会出場で新たな1ページ

ソフトボール部顧問 船水 昭宏

長い時間が過ぎてようやく念願の瞬間が来ました。



またあの場所に立つまでにこれだけの時間が必要になるとは夢にも思いませんでした。予選リーグは3戦全勝。決勝トーナメントの1回戦では春日井南高校に敗退し敗者復活戦に回りました。1つ目の菊華高校に勝ち、県大会出場をかけて栄徳高校との対戦となり、お互いに1点ずつ取って1-1のまま最終回。

1アウト2、3塁からエンドランと相手のエラーで3点取り4-1に。その裏2アウトを取ったものの雨がひどくなってきました。雨でボールが滑り、フォアボールでランナーを出してしまう。「また夢の邪魔をするのか…」と空を見上げました。次のバッターがショートゴロ。ファーストに送球しキャッチした瞬間に9年ぶりの県大会出場が決まりました。この9年間に卒業していった子ども達の顔を思い出し涙が出ました。またソフトボール部の新しい1ページが開かれました。

1アウト2、3塁からエンドランと相手のエラーで3点取り4-1に。その裏2アウトを取ったものの雨がひどくなってきました。雨でボールが滑り、フォアボールでランナーを出してしまう。「また夢の邪魔をするのか…」と空を見上げました。次のバッターがショートゴロ。ファーストに送球しキャッチした瞬間に9年ぶりの県大会出場が決まりました。この9年間に卒業していった子ども達の顔を思い出し涙が出ました。またソフトボール部の新しい1ページが開かれました。

「共奏」掲げ、学業との両立を心がけながら日々練習

吹奏楽部顧問 古野 達也

平素より吹奏楽部の活動に多大なご協力とご理解をいただきましてありがとうございます。吹奏楽部は「共奏」をモットーに掲げ、学業との両立を心がけながら日々練習に励んでいます。日ごろの努力が実り、中部日本吹奏楽コンクール本大会小編成の部で「銀賞」、日本管楽合奏コンテスト全国大会S部門で「最優秀グ

ランプリ賞(第1位)及び文部科学大臣賞」を受賞することができました。

大会の会場である石川県や東京都での演奏は貴重な経験となり、それが生徒たちの達成感や自信につながりました。

また2019年1月には、日本特殊陶業市民会館にて第62回定期演奏会を成功のうちに終えることができました。



た。ここでは、自主的に演奏会を組み立てることの難しさとやりがい学びました。私たちの音楽を聴いて下さる皆様からの応援を励みにして、今後も練習に一生懸命取り組んでまいります。

3rd TOHO FAMILY DANCE PERFORMANCEを終えて

ダンス部顧問 伊藤 恵子

3回目の自主発表会“COLOUR Of FLOWERS”は台風が近づいている中、実施できるかどうか判断が難しい状況でしたが、おかげさまで2回ともほぼ満席の観客数で無事終えることが出来ました。出演者3年生11人、2年生13人、1年生19人、OB&OGが9人で計52人。アナウンス担当の東邦高校放送部4人、デザイン担当OG、映像担当OB、作品を提供して下さったコーチ、講師の先生方3人。心を一つにステージを創りあ



げることが出来たことを嬉しく思います。足を運んで下さった皆様に顧問、部員一同心より感謝申し上げます。

今後も皆さんに楽しんでいただける舞台作りを心掛けていきたいと思っています。本当にありがとうございました。

念願の県大会出場

男子バスケットボール部顧問 加藤 禎大

東邦高校男子バスケットボール部の顧問になってちょうど10年目になりましたが、ついに県大会に出場することが出来ました。今まで応援して下さった方々に感謝の気持ちでいっぱいです。



現在のチームは180cm以上が1人もいない小柄なチームで

す。このチームで勝つためには、走ることに、全員で守ってリバウンドを取ることを常に意識して練習に励んできました。

今大会初戦の相手は180cm以上の選手が3人もいて、大きさの部分では相当不利でしたが、よく守り、よく走ってくれました。初戦を僅差で逆転勝ちすることができたこのチームは、試合を重ねるごとに良くなり、見事に県大会への切符を勝ち取りました。

今回は、組み合わせにも恵まれていましたが、継続して県大会に出られるようにこれからも練習に励んでいきます。応援よろしくお願いします。

自身を高める力が集まってこそそのチーム力

女子バスケットボール部顧問 川口 明香

県大会に出場し続けるということ。それは、言葉以上に難しいことであるという事を、私たちは実感しています。東邦高校の女子バスケットボール部における15年ぶりの県大会出場を果たしたのは3年前のことでした。



それからの月日、毎年県大会に出場するも、簡単に決まる年などはありませんでした。常に泥臭く、全身全霊でぶつかり続けているのです。全ては、仲間と共に喜びを分かち合うために。

新たなチーム目標は、県大会ベスト8。“心技体知”という言葉に胸に、知力を持って己を伸ばすという方針のもと、チーム一丸となって努力を続けています。経験でプレーをするのではなく、自身を高める力に誇りを持って挑みます。

OGの皆様をはじめ、応援して頂いた全ての方々に感謝を申し上げますと共に、今後も変わらぬご支援のほどよろしくお願い致します。

全国選抜大会ではベスト8以上を目指す

空手道部顧問 二村 智代

夏のインターハイを終え新チームとなり、愛知県新

人体育大会において、男子個人形では高杉龍之介が圧倒的な力で連覇。男子重量級組手において安井航志、女子軽量級組手において吉田舞香、女子重量級において大庭沙弥華が初優勝することができました。また男子団体組手では5年ぶりに優勝となりました。また3月に行われる全国選抜大会を決める東海高等学校空手道選手権大会において、男子個人形と男子団体組手で入賞し出場権を獲得することができました。

部員数は決して多くはありませんが、一人ひとりが意識を高め、切磋琢磨してレベルアップをしてきました。全国選抜大会ではベスト8以上を目指し、努力していきます。



いつも空手道部をご支援いただきありがとうございます。今後もチーム一丸となり精進して参ります。応援よろしくお願い致します。

「なごや生物多様性センターまつり」で研究発表

科学研究部顧問 平川 史子

名古屋市天白区の「なごや生物多様性センター」で10月27日に開催された同センターまつりで、同市周辺の高校生たちによる研究発表会が開かれ、科学研究部も参加しました。

我々の研究は、特定外来生物ブルーギルを隅除川や猫が洞池で捕獲・駆除しつつ、透明標本にするものです。現3年生が立ち上げたテーマですが、今回初めて下級生だけで口頭発表しました。

司会の方が「20年前の猫が洞池はタナゴやモツゴが釣れたのにブルーギルしか釣れない池になっているのですね」とコメント。外来生物による環境激変に直面していることを実感しました。

他校は、大学でやるような研究を発表する高校生がいたり、学校ぐるみでハス田の復元に取り組む高校があったりと、研究レベルの高さに圧倒され、刺激を受けました。

我々はまだ始めたばかりですが、学校周辺の川・池の定点観察を続け、活動を楽しみながら生物環境の保全に関わりたいと思いました。



「平成」最初の甲子園で優勝した東邦高校 「平成」最後の甲子園につながる東海大会優勝



第71回秋季高校野球東海地区大会で東邦高校が3年ぶり11回目の優勝に輝きました。東海地区代表として出場した明治神宮大会では、初戦で八戸学院光星に3-7で敗れましたが、2年連続30回目のセンバツ甲子園出場への夢が大きく膨らみました。

2019年春の第91回選抜高等学校野球大会は平成の時代としては最後の大会となります。東邦高校は平成の時代が幕を開けた1989(平成元年)の第63回大会にも出場し、4度目の全国優勝に輝きました。甲子園への出場切符が届くころには、「平成最後の甲子園でもぜひ優勝を」という期待が一段と高まりそうです。

東海地区大会決勝は10月28日、四日市球場で行われ、愛知県大会1位の東邦高校が津田学園高校(三重3位)を10-2で下しました。

東邦は1回、熊田任洋選手(2年)の適時2塁打で先制。2回には松井涼太選手(2年)の2点2塁打で追加点を挙げ、3回には打者一巡の猛攻で5点を奪い、津田学園を突き放しました。先発の石川昂弥投手(2年)は自責点1で完投しました。

主将の石川投手は「優勝を目標にしてきたので、この結果を残せたことはうれしい。試合を重ねるごとに、チームが強くなっているのを実感した」と力強く語りました。



60年前 戦後初の甲子園出場に沸いた東邦高校 生徒3人が自転車で応援に向かった

第31回センバツでの東邦高校応援風景

戦前の甲子園で春3回の優勝など、春夏10回の出場を果たした東邦商業。戦後、東邦高校として生まれ変わり、初めて甲子園の土を踏んだのは60年前、1959(昭和34)年の第31回全国選抜高校野球大会(センバツ)でした。戦時中の1941(昭和16)年以来18年ぶりに甲子園出場を果たした東邦は歓喜に沸きました。母校を応援しようと、名古屋から自転車で甲子園に向かった3人の生徒たちがいました。その1人、古橋徳一さん(75)(名古屋市昭和区)に当時の思い出を語ってもらいました。
(広報企画課・中村康生)

金山で見たテレビ中継に歓喜

自転車で甲子園に向かったのは私と、同じ商業科の同級生だった伴野好正、川船敏郎の3人です。第31回センバツ大会で東邦高校は4月2日の1回戦で倉敷工業高校と対戦し、10-3で快勝しました。

2年生になったばかりの私たち商業科1年J組の5、6人は金山の同級生宅に集まり、テレビ中継に見入りました。みんな特に野球が大好きというわけではありませんでしたが、野球部員の同級生もいましたし、「野球名門校の東邦」「強打の東邦」など中継される心地よい言葉に、全員が次第に熱くなっていました。「おい甲子園に行こうぜ」と川船が切り出すと、「よし行こう」と全員が一致。「もちろんサイクリングだぜ」と川船が念を押すようにつけ加えました。

私たちの仲間は、岐阜県各務原市に飛行機を見に出かけるなど、しばしば自転車での遠出を楽しんでいました。この年の春休みに、「高校時代の思い出に残ることをやろう」と、京都、奈良に自転車で繰り出す話がありましたが、計画倒れになっていました。

当時の自転車は、今のようなカッコいいサイクリング車ではありません。私の自転車は、商売の配達にも

使う荷台ががっちりした実用車です。テレビ中継を見た直後は全員で意気投合したものの、その夜、1人は自転車の都合がつかず、他は家庭の事情などで脱落、結局、3人での決行となりました。



左から川船さん、伴野さん、古橋さん

野宿して警察官に励まされる

西区の私の家に集まった3人が、甲子園へ出発したのは4月3日午前9時15分ごろです。この時点で、後で大きなダメージとなる「事件」が起きていることには気づきませんでした。川船が私の部屋に残してきたジャンパーポケットに財布を置き去りにして来たのです。

一色大橋を渡って大阪に通じる国道1号線(東海道)に出ました。四日市に入ったのが午前11時55分ごろ。街道端に自転車を放り出して昼食を取りました。伴野が弁当を持ってこなかったため、川船のサンドイッチは3人の奪い合いになりました。

亀山を通り抜けて「まだ食い足らん」と小田巻屋に入りました。いい加減食べた後、川船が「あっ」と声を上げました。「金が入ったジャンパーを徳(古橋)の家に置いてきた」と言い出したのです。「ただでさえ金が足らないのに、お前はどのようなアホだ」。私と伴野は



甲子園への道中での伴野さん(左)と古橋さん(四日市市付近で)

絶句しました。

琵琶湖から流れ出る野洲川の竹藪で野宿を試みたものの、予想以上に風が強く、あきらめて、国道1号をさらに走り続けました。時計は4日午前0時15分を回っていました。すごい勢いで追い越していくトラック運転手には、前方に浮かび上がる3台の自転車は異様に見えたのでしょう。「ばかやろう」と怒鳴り声を上げる若い運転手もいました。

京都市内に入りました。山科で野宿先を探していると、3人の警察官にライトを向けられ、「君たちは何をしている」と聞かれました。「東邦高校のもので、甲子園に応援に行くところで、ここで野宿しようと思っています」と答えると、「あそこがポリボックスになっている。何か用があったら来なさい」と言ってくれました。

夜明けに、その交番に立ち寄ると、福島県出身だという若い警察官がお茶を入れてくれました。火鉢を囲みながら警察官は、「わしも君たちのように、サイクリングで九州一周をしたことがある」と励ましてくれました。

阪神電車内で見た東邦の帽章に懐かしさ

大阪城が望まれる大阪市城東区にたどり着いたのは4日昼ごろでした。「甲子園での試合に遅れたら何にもならんぞ」ということになり、梅田で自転車預かり所を探して自転車を預け、阪神電車で甲子園に急ぎました。

電車内には東邦の帽章があちこちで目に入り懐かしさを覚えました。入場券はありませんでしたが、球場前を歩いている林静男先生を見つけ、入れてもらいました。スタンドでは、第3試合である東邦高校－長崎南山高校戦の開始予定である午後3時はとくに過ぎているのに第2試合の県立尼崎高校－苫小牧工業高校戦が雨の中で続いていました。

結局、第3試合は雨のため翌日に順延となりましたが、私たちは新聞記者のインタビューを受けました。名古屋から自転車で甲子園に応援に来たことがめずらしかったのでしょう。名古屋に帰って、毎日新聞にその記事が掲載されたことを知りました。「3人は野宿をして4日午後に球場に現れたと」紹介されていました。

東邦、無念の惜敗

雨で試合は翌日に延期となりました。所持金は合わせて1020円だけ。甲子園に来ていた先生に相談すると、応援にきた20人近い先輩たちが泊まっている球場そばの旅館に泊まるよう指示されました。先輩たちは「この寒いのに野宿したのか」「自転車で1日どのくらい走れた」「競輪ならお前らが本命だな」などと温かく声を

かけてくれました。

5日の試合も中盤戦から降り出した雨の中で行われ、東邦は長崎南山にランニングホームランを許し0－1で惜しくも敗れました。

帰りの甲子園駅ホームにはすでに、東邦音楽部の部員たちが群れていました。梅田に着いたのは午後5時半。夕闇が立ち込める中、阪急デパートを見物し、サイクリング用地図を購入。預けていた自転車を受け取った時には6時を過ぎていました。

保護してくれた消防署員たち

帰路は奈良でお寺でも見て帰ろうと、大阪南部から奈良に向かいました。下り坂が続きました。今から思うと、私が2人よりどんどん早く行きすぎていました。いくら待っても2人が来ない。すでに夜9時を過ぎていました。柏原消防署の赤い消防灯を見つけて転がり込み、事情を話すと、「泊まっていきなさい」と受け入れてくれました。

伴野と川船は私を探すため八尾市付近で迷走し、結局午前0時近くになって平野警察署に駆け込み、私が柏原消防署に保護されていることを知ったそうです。2人も柏原消防署にやってきて、結局3人で泊めてもいました。

てんぷらと漬物のおかずで食事をいただき、風呂にも入れてもらいました。消防署の人たちは本当に親切にもてなしてくれたうえ、「東邦、残念だったなあ」と慰めてくれました。この時ほど、警察署、消防署のありがたさを感じたことはありませんでした。

3人で署長室に泊めてもらいました。4月といっても、まだ寒く、布団にもぐりこんだ時は、人の情けの嬉しさと、家が恋しくなり、胸に熱くこみ上げてくるものを感じながら眠りに落ちていきました。

翌朝も、署員の方が用意してくれた、心づくし朝食をいただきました。味噌汁がこれほどおいしいと思ったことはありませんでした。署員の皆さんの見送りを受けて出発した私たちは、奈良に入り、法隆寺、東大寺、若草山、郡山城、春日大社を見学して、名古屋に帰りました。

お金のない時代でしたから、自転車で甲子園まで往復してきたと言っても同級生たちは、そう驚きませんでした。ただ、私たち3人は、人間、真面目に努力すれば何とかかなる。どこかで必ず、だれ



かが抱きしめてくれ、60年前の思い出を語る古橋さん

励ましてくれる。世の中には悪い人間より良い人間の方が多いのだと実感した甲子園自転車旅行でした。

◆東邦学園ホームページで「語り継ぐ東邦学園史」を連載中です。ご覧ください。

大学のブランドシンボル・コンセプトフレーズ 「オンリーワンを、一人に、ひとつ。」

浸透めざし教育活動で展開



愛知東邦大学では2018年4月に発表した新たなブランドシンボルとコンセプトフレーズ「オンリーワンを、一人に、ひとつ。」を教育活動の中で展開しております。今回は3つの事例を紹介させていただきます。なお、今後もコンセプトの下、様々な活動や企画を行っていく予定です。学生のみなさんと一緒に愛知東邦大学の軌跡を作っていきたいと思います。

(ブランド推進委員会)

「じぶんブランディングプログラム」

2018年度より、高校1・2年生に向け、新たなプログラムとして「じぶんブランディングプログラム」を開始しました。このプログラムの目的は、「じぶんを知り、じぶんを磨く。そして新たな“自分”と出会う」、そのきっかけを提供することです。ガイダンス(50分)



「じぶんブランディングプログラム」授業
ガイダンス風景(右上も同じ)

を行い、「じぶんブランディング手帳」を進呈します。手帳の中身は、振り返りと行動を自主的に反復していく「体感プログラ

ム」になっています。

開発のきっかけは、進路選択に悩む高校生と向き合う中で、「自らの人生を、



自らが歩むことの大切さ」を伝えたい。そして、「一人ひとりの人生を大切に歩んで欲しい」という想いから始まりました。高校への出張講義、個別開催、オープンキャンパス等で実施し、11月現在の受講者は780人に達し、年度内までの予約を含めると1500人を超える見込みです。今後も改良を重ね、気づきの多いプログラムを目指して取り組みます。

(入試広報課長・三輪哲也)

「自己プロデュース入試」

2019年入試から一般入試や推薦入試とは違う、新しい入試選抜のハードル、「自己プロデュース入試」を導入しました。自分自身のプロデュース力とプレゼンテーション力がこの選抜の軸になります。自ら情報を集め、インプットしたこと自分の考えを加え、自分の言葉で他者に伝わるようにアウトプットすることを評価。プロデュースに必要な情報は、「シラバス(各授業科目の内容)」「研究室訪問」「先輩訪問」の3つを用意。この機会を活用して大学での4年間をイメージする手がかりを見つけ、自分の4年間をプロデュースします。進学後のモチベーションを大切にする育成型入試です。

(入試委員会)

「ラッピングバス」

ブランドシンボルをイメージした新しいバスラッピングが完成しました。日進グラウンドまでの往復で毎日運行し、イメージの確立に貢献してくれています。



大学と日進グラウンドを
走るラッピングバス



「フレンズ・TOHO」は、みなさんの参加をお待ちしています！

「フレンズ・TOHO」では、様々な催しや交流の場を設けています。会員の方はもちろんですが、会員でない方にも、是非、参加していただきたいと思っています。

興味のある方、参加してみたい方は、フレンズ・TOHOまでご連絡ください。お待ちしております。

フレンズ・TOHO事務局
TEL: 052-782-1954
E-mail: friends@aichi-toho.ac.jp

昨年6月、「フレンズ・TOHO」総会記念講演会で、上野千鶴子氏の講演をお聞きしました。「おひとり様

の最期～自分らしいエンディングを考える～」と題された講演は、老後の生き方について改めて考える内容でした。

また、年2回行っているバスツアーについては、昨年6月に丸岡城と福井県立恐竜博物館、11月には湯谷温泉を歩きました。

今後も、皆様の心に残るような、こうした企画を充実させていきたいと考えております。是非、ご参加ください。



同窓会広報誌「東邦の和」54号を発刊 95周年記念総会特集記事が大好評

東邦会事務局

同窓会東邦会(東邦商業学校・東邦中学校・東邦高等学校の卒業生にて組織)では、毎年10月に同窓会報「東邦の和」を発刊し、全ての同窓生および在校生や学園関係者にお配りしています。

高校の同窓会組織として作成されている会報誌としては、圧倒的な情報量を誇ります。最近では他校からも問い合わせをいただく機会も増えました。今回54号の表紙には体育祭での伝統行事「花笠」を採用。そして、フルカラー36ページで構成されています。

特集記事としては、盛大に開催された95周年記念総会の様子を掲載。様々な世代の方々が東邦の絆の

もとに集結した内容となっています。さらに、社会で活躍する同窓生特集では、アーティスト、武道家、鍼灸師、料亭や旅館経営者など、様々なジャンルの方々が登場します。もちろん、在校生が活躍している様子も紹介されていますし、各学年の同窓会やクラブOB会の記事もたくさん載っています。

今後とも事務局では、学園関係者の皆様からの幅広い情報提供をお待ちしております。



学生たちと交流を

邦友会事務局

邦友会(東邦学園短期大学・東邦学園大学・愛知東邦大学同窓会)は、以前から学生と交流をもちたいという要望があり、昨年度からその機会を持つことができました。

今年度は11月2日(金)に、学生会・大学祭実行委員のメンバーが大学祭準備の合宿をおこなう日程に合わせて開催しました。短時間でしたが、同窓会役員と学生たち、卒業生職員も加わっての懇親会となりました。

1週間後に大学祭をひかえていましたので、学生たちは気忙しい気持ちの中、約50人参加してくれました。同窓会役員は仕事を終えその足で参加しており、今回は10数人しか参加



できませんでしたが、2年目となると「お久しぶりです」と声をかけてくれる学生もあり、今後も続けていければうれしく思います。

東邦高校で小学生向け コスチュームづくりのワークショップ



東邦高校美術科が、小学生低学年の皆さんに、「なりたい自分に変身してもらうファッションショー」をします。高校生のお兄さんやお姉さんが皆さんのコスチュームづくりのお手伝いをします。コスチュームづくりに必要な段ボールやキラキラしたもの、道具類などは、高校で用意します。コスチュームで使いたいアイテムがある

人は持ってきてください。皆さんの参加をお待ちしています。

日 時 3月16日(土) 9:00～11:00 ※受付 8:30～

場 所 東邦高校特別棟 4階素描室

(名古屋市名東区平和が丘三丁目11)

対 象 小学校低学年

(小学1年生から3年生くらいまで)

服 装 汚れても良い服装でお越しください。

持ち物 水筒・はさみ・作品を持ち帰るための手提げ袋

あったらいいもの いらなくなった服や布、ビーズなどコスチュームで使えそうなお気に入りのもの(汚れてもよいものに限る)

定 員 事前申し込みで先着順40人(定員数になり次第締め切ります)※保護者の方や付き添いの方も是非ご参加ください。

申し込み・問い合わせ

東邦高校美術科(担当・杉浦)にEメールにて
toho.art.design@gmail.com

愛知東邦大学 同窓生入試のお知らせ

愛知東邦大学・東邦学園大学・東邦学園短期大学・東邦高等学校卒業生の子または愛知東邦大学在学学生・卒業生のきょうだいに対して入試を実施します。

特典としては愛知東邦大学の入学金が半額になります。

一般入試と比べ条件も有利です。ぜひこの機会にご利用ください。

Ⅲ期 出願期間 2019年1月23日(水)～2月19日(火)

問 合 せ 愛知東邦大学 入試広報課

TEL: 052-782-1600

初めての方も大歓迎

学生主催の認知症カフェ 第4回「とーほーカフェ」

「認知症カフェ」は認知症の人やその家族が安心して生活できるよう支援するために全国各地で様々な形で広がっています。「とーほーカフェ」は、愛知東邦大学の学生たちが、学生の視点から、まずは地域の人たちの交流スペースとなることを目指して昨年7月から、学生寮TOHO Learning House 2Fコミュニティスペースを使って開催しているカフェです。

日 時 3月24日(日) 13:00～16:00

会 場 愛知東邦大学学生寮

TOHO Learning House 2F

(名古屋市名東区社台2-148)

会 費 200円 美味しい飲み物をご用意しています。

問合せ TEL: 050-7579-3539

(対応時間 8:00～10:00、17:00～22:00)

メール toholearninghouse@gmail.com



愛知東邦大学 プレオープンキャンパス開催!

本格的なオープンキャンパスが始まるのは7月からになりますが、春休みに1日だけのオープンキャンパスを開催します。当日は大学全体の説明や施設見学等を予定しています。夏のオープンキャンパスを前に参考にしてもらえればと思います。まだ進路が定まっていない人が大半です。少しでも早く進路に対するモチベーションを高めていきましょう。

開催場所 愛知東邦大学キャンパス

日 時 2019年3月28日(木)

時 間 10:00 オープニング開始(9:30 受付開始)

対 象 高校生、保護者のみなさま

内 容 大学紹介、施設見学、個別相談など

問 合 せ 愛知東邦大学 入試広報課

TEL: 052-782-1600